

1. 事業構想評価

(1)事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目標	メニュー	指標	開始年度	目標年度	達成状況															備考			
					1年目(開始年度)			2年目			3年目			4年目			5年目						
					目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
安定供給体制の整備推進	間伐材生産	間伐材生産経費(円/㎡)の減少率	H30	R4	-	-	-	1%	22%	2200%	3%	14%	467%	4%	18%	450%	5%	26%	520%				
	高性能林業機械等の整備	労働生産性(㎡/人・日)の増加率	R2		11%	-	-	12%	-	-	13%	-	-									別紙の理由により評価対象外とする	
木材利用及び木材産業体制等の整備推進	木材加工流通施設等の整備		地域材利用量(㎡)の増加率		R2	1%	-4%	-400%	3%	-16%	-540%	6%	-10%	-167%									
	木造公共建築物等の整備	木造化(補助率1/2以内)	事業費当たりの木材利用量(㎡/百万円)		R2	2	2.94	147%	2	2.47	124%	2	2.47	124%									
		木造化(補助率15%以内)																					
		木質化																					
	木質バイオマス利用促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備			事業費当たりの木質バイオマス利用量(㎡/百万円)																		
		木質バイオマス供給施設整備																					
木質バイオマスエネルギー利用施設整備																							

(注)

- 1 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 3 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 4 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 5 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。
なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

(別紙)

(1)事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況のうち、高性能林業機械を評価対象外とした理由

令和元年度(繰)林業・木材産業成長産業化促進対策交付金により実施予定であった高性能林業機械の整備について、グラップル付フォワーダを導入予定であったが、事業実施主体側の不注意により納品された機械が県の完了検査前に損傷する事故が発生した。

事業実施主体に確認したところ、完了期限までに損傷した機械の修理をすることは難しく、また保険のために当該機械を保険会社に引き渡す意向があることから、県として事業の完了を確認することは不可能であると判断し、事業を中止し、国へ不用額として報告を行った。

このことから、事業を実施出来なかったものとして、事業構想の評価の対象外とした。

2. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率(%)	年度	
安定供給体制の整備推進	コンテナ苗生産基盤施設等の整備	コンテナ苗の生産量(増加量)	30	千本	H30 (2018)	350	千本	R5	328	94%	R5 (2023)	県独自の林業種苗生産状況調査より(R6.8.8.)
						(320)			(298)	(93%)		
自立的林業経営活動の推進	自立的経営活動推進	素材生産量が増加する団体の数	2	団体	R4 (2022)	5	団体	R5 (2023)	4	80%	R5 (2023)	自立的経営活動推進事業の実績より(R5.3.28)
マーケティング力ある林業担い手の育成	労働安全の確保	素材生産量(目標値)	399	千m ³	R4 (2022)	399	千m ³	R5 (2023)	452	113%	R5 (2023)	三重の森林づくり実施状況報告書(令和5年度版)より 厚生労働省「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況(令和5年確定値)より
		災害発生件数(減少率)	33	件		29 (-12.1%)	件		25 (-24.2%)	116% (200%)		

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績/目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
安定供給体制の整備推進	目標達成に向けて、4年目までは順調に達成していたが、令和5年度に生産者1名が亡くなってしまったため目標達成することができなかった。	亡くなった生産者に配布して生産できていなかった種子を、今年度、他の生産者に再配分して生産している。今後も、現状の生産者で亡くなった生産者の分まで生産していけるため、目標は達成できる見込みである。
自立的林業経営活動の推進	1団体は前年度より搬出数量を減らしたものの、資器材の支援やチェーンソーの取扱いに関する技術指導などの成果により、他4事業体は素材生産量を増加させることができた。	事業地の拡大や生産性の向上が課題となるため、課題に対応できる研修や講習会への参加を促し、個々の能力を高めていく必要がある。
マーケティング力ある林業担い手の育成	当該補助事業を含む各種の労働安全に関する取り組みの実施により労働災害発件数の削減目標を達成することができた。素材生産量についても目標を達成することができたのは、労働安全の確保が図られたことが寄与していると考えられる。	他産業と比較すると依然として労働災害発生率が高いため、普及啓発活動により法令等の遵守を徹底させるほか、林業事業体における安全教育の強化を進める必要がある。

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。

(3) 個別事業の評価及び今後の課題とその解決策

目標	メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等 区分	設置年度 及び目標年度	個別事業により実施した 目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
安定供給体制の整備推進	コンテナ苗生産基盤施設等の整備	コンテナ苗生産基盤施設等整備	■■■■	コンテナ苗生産基盤施設等 -コンテナ苗生産施設装置等 -生産資材 -動力噴霧器、冠水設備等	設置年度： 平成30年度 目標年度： 令和5年度	令和4年度まで目標値を順調に達成していたものの、令和5年度に組合生産者の急死による脱会があり、脱会者分のコンテナ苗の種撒きができず令和5年度分の目標生産数を割り込んだ。	脱会者分の生産資材・種を組合員に割振りして配布済。令和6年度生産分で目標達成予定。
			■■■■	コンテナ苗生産基盤施設等他 コンテナ苗生産施設装置等 生産資材 育苗施設(ビニールハウスほか) 散水装置等	設置年度 平成30年度 目標年度 令和5年度	目標を達成したが、当初の見通しよりも桧の需要が少なく、逆に杉の需要が多くなった。三重県内でまだコンテナ苗の需要があまり無く、県外に営業してなんとか売っている状態である。 ※個別指標の増加量について、桧、杉のそれぞれでは目標達成していないが、桧、杉を合わせると目標達成しているので、個別指標は目標達成したと判断します。	今の施設では最大12万本までしか作れないので、今後コンテナ苗を増産するには、新しい散水施設を増設する必要がある。 ⇒R8年度に増設予定。 10年後には年間20万本生産を目標としている。 また、少花粉品種の需要が高いため、採種園の造成も急がないと種の確保ができない。 ⇒R6年度に閉鎖型採種園を3棟建設する。

木材利用及び木材産業体制等の整備推進	木造公共建築物等の整備	木造公共施設整備	■■■■■	公共施設 木造公共施設 有料老人ホーム	令和2年度 令和7年度	<p>令和5年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者増に向けた取組が制限された1年でした。</p> <p>当施設の入居者は高齢(65歳以上)で新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いことから、5類移行後も入居者の家族の面会を制限するなど、感染対策を徹底する必要があります。入居者をはじめ、その家族などの利用者を増やす取組の実施が非常に困難となりました。</p> <p>一方で、当施設の最終目標とする自社開発のリハビリトレーニング機器を備えた「元気になる新形態の老人ホーム」始動に向けた取組については、令和5年8月から三重大学との共同研究の開始を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で令和6年1月からとなり、令和7年3月までの実施を予定しています。</p> <p>共同研究の進捗は順調で、現在、入居者によるリハビリトレーニングの実証実験を重ねている状況です。令和6年9月に三重大学が発表した当該共同研究に係る論文によると、当トレーニングはフレイルの予防及び改善に効果的であると評価され、また、トレーニング参加者は木をふんだんに使った施設に対し癒しを感じると大変好評をいただいていることから、利用者を増やすための取組として効果的であり、引き続き取り組んでいくことが有効だと判断されます。</p>	<p>「元気になる新形態の老人ホーム」は令和7年4月に本格始動を予定しており、これまでに、共同研究で得られたエビデンスを活用して、見学会の実施や積極的なPRを行い利用者の増加を図ります。</p> <p>また、当施設は、老人ホームとしての利用に加え、令和6年7月より子ども食堂としても施設を活用しており、利用者の増加に向けて引き続き取り組みます。</p> <p>令和7年4月に「元気になる新形態の老人ホーム」として本格始動した際には、月900人の利用者を見込んでいることから、イベント等の利用者も加えると、令和7年度には目標値を達成できる見込みです。</p> <p>※個別指標について、施設利用者数の達成率が33%となっていますが、事業実施主体の責に帰することのできない事由によるものであるため、改善措置には該当しないと判断します。</p>
--------------------	-------------	----------	-------	---------------------------	----------------	---	---

(注)

- 1 事業実施主体が導入した施設等区分ごとの目標年度における評価等を記載すること。ただし、(1)施設の利用状況における実績(達成率)が要領第8の1に定める低調である場合においても作成すること。
- 2 「設置年度及び目標年度」欄は、上段に設置年度、下段に目標年度を記載すること。

別様

目標	メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等 区分	設置年度 及び目標年度	低調となった要因	目標達成に向けた取組
木材利用及び木材産業体制等の整備推進	木材加工流通施設等の整備	木材加工流通施設整備	■■■■■ ■■■■■	木材集出荷販売施設 木材集出荷用機械 その他 グループ	令和2年度	<p>コロナ禍の後、ウッドショック高騰は一瞬ですばみ元の原木安値に戻る事となる。ウッドショックが2年ほどの高値が続けばまた違った先が見えたであろう。コロナが5類になる頃には先行き不安な材料が多いのとインバウンド等の景気が順当に戻るであろうまでの間は不安定で円安の影響と人件費上昇により反動なのか家が建つ兆が低迷したためと思われる。今や建築費は1.5倍となっている。</p> <p>上記のような社会情勢から原木が入ってこない。</p>	<p>諸経費や燃料費も上がり、人件費も上がりつつあるなか綿密な打ち合わせや、限られた人数、決められた時間内で効率よく働く工夫(天気予報を確認し天候に添いながらの仕事の工夫をする。分担、ローテーションの工夫、機械操作による故障しないような工夫。コミュニケーションを良くする工夫。)によるコストの削減。</p> <p>原木の供給量を増加させるために、搬出業者(■■■■■ ■■■■■)への営業を増やし、緊密な連携を取りながら協力体制を取れるよう、社員一丸となって努力をする。</p>
林業経営体の育成	林業経営体育成対策(林業機械リース)		■■■■■ ■■■■■	ハーベスタ スイングヤーダ	令和元年度	<p>人材育成を行いながらの事業実施であったにも関わらず、わずかではありますが生産性を伸ばすことが出来ました。</p> <p>一方、生産量については、間伐による素材生産量は例年程度の材積を生産できたものの、皆伐後の再造林問題などにより、皆伐による生産量が想定よりも増加しなかったため、目標を下回る結果となりました。</p>	<p>提案型集約化施業の搬出間伐について、生産性の向上は努力により目標達成を目指すことが出来ますが、生産量については、間伐・皆伐の割合であったり、間伐の補助金の不安定さであったり、皆伐後の再造林問題などにより、年間を通しての木材搬出事業が出来ない年が続いております。上記事業以外でもスイングヤーダを使用していますが、搬出量が伸びない事業でありますので、生産量については、今後も不安定な数字が続くと予測されます。</p> <p>目標達成に向けて、上記の課題に取り組みながら、今年度からは、花粉の少ない森林への転換促進対策の伐採・植替えの一貫作業に取組み、素材生産の増大に努めています。</p>

3. 個別事業評価

森林整備・林業等振興整備交付金

(1) 施設の利用状況

目標	メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等区分	設置年度	個別指標 (目標値)	達成状況					備考
							1年目 (令和元年度)	2年目 (令和2年度)	3年目 (令和3年度)	4年目 (令和4年度)	目標年度 (令和5年度)	
安定供給体制の整備推進	コンテナ苗生産基盤施設等の整備	コンテナ苗生産基盤施設等整備	■■■■■ ■■■■■	コンテナ苗生産基盤施設等他 コンテナ苗生産施設装置等 生産資材 動力噴霧器 冠水設備等	平成30年度	コンテナ苗の生産量(千本)	50	100	150	200	250	上段:計画 中段:実績 下段:達成率
						- → 250	50	120	180	250	201	
						100%	120%	120%	125%	80%		
						国庫補助相当額に対する効果(円/本)	-	-	-	-	38	
						0 → 38					36	
											95%	
安定供給体制の整備推進	コンテナ苗生産基盤施設等の整備	コンテナ苗生産基盤施設等整備	■■■■■ ■	コンテナ苗生産基盤施設等他 コンテナ苗生産施設装置等 生産資材 育苗施設(ビニールハウスほか) 散水装置等	平成30年度	コンテナ苗生産量増加量(桧)(千本)	50	50	70	70	70	上段:計画 中段:実績 下段:達成率
						30 → 70	40	43	39	41	47	
							80%	86%	56%	59%	67%	
						コンテナ苗生産量増加量(杉)(千本)	0	10	10	20	30	
						0 → 30	30	40	64	62	80	
							-	400%	640%	310%	267%	
コンテナ苗生産量増加率(桧)(%)	160	160	230	230	230							
H30を100とした場合	230	133	143	130	136	157						
	83%	89%	57%	59%	68%							
コンテナ苗生産量増加率(杉)(%)	0	100	100	200	300							
H32を100とした場合	0	100	160	155	200							
	0%	100%	160%	78%	67%							

目 標	メニュー	事業種目	事業実施 主体	施設等 区 分	設置年度	個別指標 (目標値)	達成状況					備 考
							1年目 (令和4年度)	2年目 (令和5年度)	3年目 (令和6年度)	4年目 (令和7年度)	目標年度 (令和8年度)	
木材利用 及び木材 産業体制 等の整備 推進	木造公共建 築物等の整 備	木造公共施 設整備	■■■■■ ■■■■■	公共施設 木造公共施設 園舎2F(木造耐火)	令和3年度	施設利用者数 (人)	3,000	3,500	4,000	4,500	4,680	上段:計画 中段:実績 下段:達成率 ・JAS製材品使用量:187.31m3 ・地域材使用量:364.92m3 ・合法伐採木材使用量:364.92m3 ・クリーンウッド法に基づく登録実施機関への登録状況:無 ・川上との連携:無
						0 → 4,680	7,494	9,606				
						250%	274%					
						単位面積当たりの地域材利用量 (m ³ /m ²)	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	
						0 → 0.23	0.21	0.21				
91%	91%											
単位面積当たりの事業費 (万円/m ²)	23.95	23.95	23.95	23.95	23.95							
0 → 23.95	20.31	20.31										
118%	118%											
CLT利用量 (m ³)	0	0	0	0	0							
0 → 0	0	0										
0	0											
固定資産税が生ずる木材が認められやすくなる仕組みの構築 (件)	1	1	1	1	1							
0 → 1	0	0										

目 標	メニュー	事業種目	事業実施 主体	施設等 区 分	設置年度	個別指標 (目標値)	達成状況					備 考
							1年目 (令和5年度)	2年目 (令和6年度)	3年目 (令和7年度)	4年目 (令和8年度)	目標年度 (令和9年度)	
木材利用 及び木材 産業体制 等の整備 推進	木材加工流 通施設等の 整備	木材加工流 通施設整備	■■■■■ ■■■	木材処理加工施設 木材製材施設装置 帯鋸盤 丸鋸切断機	令和4年度	地域材利用量 (m3) 377 → 530	395	430	465	465	530	上段:計画 中段:実績 下段:達成率
木材利用 及び木材 産業体制 等の整備 推進	木材加工流 通施設等の 整備	木材加工流 通施設整備	■■■■■	木材処理加工施設 木材製材施設装置 帯鋸盤 丸鋸盤等	令和4年度 【繰越分】	地域材流通量 (m³) 0 → 1,900	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	上段:計画 中段:実績 下段:達成率
						選定種畜体との木材安定取引協定締結数 (戸) 0 → 7	7	7	7	7	7	

(注)

- 1 「個別指標」の欄には、事業計画に記載した個別指標及び目標値を記載すること。
- 2 「達成状況」の欄には、上段に目標値に対する各年度の実績を、下段に達成率(実績／各年度の目標値)を記載すること。なお、製品出荷量実績におけるJASの格付率又は入荷量に占めるJAS製材品の割合の報告を要する場合は、達成率の下に括弧書きで記載すること。
年度ごとに目標値を設定している場合は、最上段にそれぞれ記載すること。
- 3 報告年度については、要領第6の2の(2)又は第8の3に基づくこと。
- 4 利用料等を徴収する施設を整備した場合は、施設全体の実績のほか、利用料金等を徴収する施設ごとの実績についても記載すること。
- 5 木造公共建築物等の整備については、個別指標の実績のほか、以下の項目をとりまとめて併せて報告すること。
(1)要領別表1のⅡの「7木造公共施設整備」の(2)の④に係るJAS製材品の使用量、同表の7の(2)の⑤に係る地域材及び合法伐採木材の使用量を備考欄に記入するとともに、同表の7の(2)の⑥に係る本事業において整備する施設の建設工事を行う者のうち地域材の調達に関わる者のクリーンウッド法に基づく登録実施機関への登録状況(登録番号等)を記載すること。
(2)調査初年度から目標達成年度までにおいて、要領別表1のⅡの「7木造公共施設整備」の(2)の⑧の木材利用を通じた社会的課題解決の指標の状況をとりまとめて添付すること。
- 6 木質バイオマス利用促進整備のうち、事業計画書の備考欄に「未利用材を利用」と記載したものについては、「達成状況」欄に木質バイオマス利用量の実績の上段へ、その内数として未利用材利用量を()書きにより記載すること。
- 7 林業機械(リース含む。)については、個別指標の達成状況のほか、毎年度の機械の稼働時間及び稼働日数を備考欄に記載すること。
- 8 別表1のⅠの2の「10 林業機械リース支援」の(2)の⑨の達成状況報告は、本様式により行い、施設等区分欄にはリース物件の林業機械名称を、個別指標(目標値)欄及び達成状況の目標年度欄にはリース期間満了年度の事業実施主体ごとの素材生産量及び素材生産性の計画値を記載すること。
- 9 コンテナ苗生産基盤施設等の整備について、事業実施主体が「認定特定増殖事業者」に該当し、目標値の達成が6年目以降となる場合は、要領第6の2の(2)に基づく「報告年度」のほか、目標値の達成年度まで欄を追加して記載すること。

目標	メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等区分	設置年度	個別指標 (目標値)	達成状況					備考
							1年目 (令和4年度)	2年目 (令和5年度)	3年目 (令和6年度)	4年目 (令和7年度)	目標年度 (令和8年度)	
林業経営体の育成	林業経営体育成対策(林業機械リース)			プロセッサ	令和3年度	素材生産量 (m ³)	2,400	2,600	2,800	2,900	3,000	上段:計画 中段:実績 下段:達成率
						2,200 → 3,000	3,378	4,280				
						141%	165%					
						素材生産性 (m ³ /人・日)	2.7	2.9	3.1	3.2	3.3	
						2.4 → 3.3	4.2	5.4				
158%	187%											
						稼働時間 (時間)	-	-	-	-		
						800	800					
						稼働日数 (日)	-	-	-	-		
						200	200					

(注)

- 「個別指標」の欄には、事業計画に記載した個別指標及び目標値を記載すること。
- 「達成状況」の欄には、上段に目標値に対する各年度の実績を、下段に達成率(実績/各年度の目標値)を記載すること。なお、製品出荷量実績におけるJASの格付率又は入荷量に占めるJAS製材品の割合の報告を要する場合は、達成率の下に括弧書きで記載すること。
年度ごとに目標値を設定している場合は、最上段にそれぞれ記載すること。
- 報告年度については、要領第6の2の(2)又は第8の3に基づくこと。
- 利用料等を徴収する施設を整備した場合は、施設全体の実績のほか、利用料金を徴収する施設ごとの実績についても記載すること。
- 木造公共建築物等の整備については、個別指標の実績のほか、以下の項目をとりまとめて併せて報告すること。
(1)要領別表1のⅡの「7木造公共施設整備」の(2)の④に係るJAS製材品の使用量、同表の7の(2)の⑤に係る地域材及び合法伐採木材の使用量を備考欄に記入するとともに、同表の7の(2)の⑥に係る本事業において整備する施設の建設工事を行う者のうち地域材の調達に関わる者のクリーンウッド法に基づく登録実施機関への登録状況(登録番号等)を記載すること。
(2)調査初年度から目標達成年度までにおいて、要領別表1のⅡの「7木造公共施設整備」の(2)の⑧の木材利用を通じた社会的課題解決の指標の状況をとりまとめて添付すること。
- 木質バイオマス利用促進整備のうち、事業計画書の備考欄に「未利用材を利用」と記載したものについては、「達成状況」欄に木質バイオマス利用量の実績の上段へ、その内数として未利用材利用量を()書きにより記載すること。
- 林業機械(リース含む。)については、個別指標の達成状況のほか、毎年度の機械の稼働時間及び稼働日数を備考欄に記載すること。
- 別表1のⅠの2の「10 林業機械リース支援」の(2)の⑨の達成状況報告は、本様式により行い、施設等区分欄にはリース物件の林業機械名称を、個別指標(目標値)欄及び達成状況の目標年度欄にはリース期間満了年度の事業実施主体ごとの素材生産量及び素材生産性の計画値を記載すること。
- コンテナ苗生産基盤施設等の整備について、事業実施主体が「認定特定増殖事業者」に該当し、目標値の達成が6年目以降となる場合は、要領第6の2の(2)に基づく「報告年度」のほか、目標値の達成年度まで欄を追加して記載すること。

(2) 収支実績

単位:千円

(三重県)

メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等区分	設置年度	項目	目標値	報告年度					備考	
							運用開始年度	1年目 (令和元年度)	2年目 (令和2年度)	3年目 (令和3年度)	4年目 (令和4年度)		目標年度 (令和5年度)
コンテナ苗生産基盤施設等の整備	コンテナ苗生産基盤施設等整備	■■■■■	コンテナ苗生産施設等	平成30年度	収入	13,410	14,970	14,970	17,990	15,217	13,663	11,145	
					支出	13,410	13,502	13,502	16,083	13,737	10,385	9,325	
					収支差	0	1,468	1,468	1,907	1,480	3,278	1,820	
					収入のうち 公的資金等				4,625				
コンテナ苗生産基盤施設等の整備	コンテナ苗生産基盤施設等整備	■■■■■	コンテナ苗生産施設等	平成30年度	収入	12,600	7,235	7,235	9,460	8,730	17,000	20,000	
					支出	4,629	2,500	2,500	6,358	7,890	15,000	17,000	
					収支差	7,971	4,735	4,735	3,102	840	2,000	3,000	
					収入のうち 公的資金等								

メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等区分	設置年度	項目	目標値	報告年度					備考
							運用開始年度	1年目 (令和2年度)	2年目 (令和3年度)	3年目 (令和4年度)	4年目 (令和5年度)	
特用林産振興施設等の整備	特用林産物活用施設等整備	■■■■■	特用林産物生産施設	令和元年度	収入	10,710	0	54,095	20,230	26,653	40,738	
					支出	7,720	0	23,565	23,538	28,561	37,038	
					収支差	2,990	0	30,530	-3,308	-1,908	3,700	
					収入のうち 公的資金等	-	-	32,476				

メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等区分	設置年度	項目	目標値	報告年度					備考
							運用開始年度	1年目 (令和3年度)	2年目 (令和4年度)	3年目 (令和5年度)	4年目 (令和6年度)	
木材加工流通施設等の整備	木材加工流通施設整備	■■■■■	木材集出荷用機械	令和2年度	収入	100,500	0	78,316	80,230	64,700		
					支出	65,764	0	68,152	70,733	63,946		
					収支差	34,736	0	10,164	9,497	754		
					収入のうち 公的資金等							
木造公共建築物等の整備	木造公共施設整備	■■■■■	木造公共施設	令和2年度	収入	76,368	1,011	1,011	2,037	3,377		
					支出	75,729	21,996	21,996	28,501	26,980		
					収支差	639	-20,985	-20,985	-26,464	-23,603		
					収入のうち 公的資金等							

メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等区分	設置年度	項目	目標値	報告年度					備考
							運用開始年度	1年目 (令和4年度)	2年目 (令和5年度)	3年目 (令和6年度)	4年目 (令和7年度)	
木造公共建築物等の整備	木造公共施設整備	[REDACTED]	木造公共施設	令和3年度	収入							対象外
					支出							
					収支差							
					収入のうち 公的資金等							

メニュー	事業種目	事業実施主体	施設等区分	設置年度	項目	目標値	報告年度					備考
							運用開始年度	1年目 (令和5年度)	2年目 (令和6年度)	3年目 (令和7年度)	4年目 (令和8年度)	
木材加工流通施設等の整備	木材加工流通施設整備	[REDACTED]	木材製材施設	令和4年度	収入	183,759	151,261	182,336				
					支出	183,490	148,870	177,870				
					収支差	269	2,391	4,466				
					収入のうち 公的資金等							
木材加工流通施設等の整備	木材加工流通施設整備	[REDACTED]	木材製材施設	令和4年度 【繰越分】	収入	126,000	35,471	73,098				
					支出	120,800	45,674	68,913				
					収支差	5,200	-10,203	4,185				
					収入のうち 公的資金等							

(注)

1 「収支実績」については、以下の施設について記載すること。

ア 収支を伴う施設

- | | | | | |
|---------------|-----------------|---------------------|------------------------|----------------------|
| (1) 木材製材施設 | (6) 木材加工施設 | (11) 木材集出荷販売施設 | (16) 品質向上・物流拠点施設 | (21) コンテナ苗幼苗生産高度化施設等 |
| (2) 集成材加工施設 | (7) 木材材質高度化施設 | (12) 森林バイオマス再利用促進施設 | (17) チップ加工施設 | |
| (3) プレカット加工施設 | (8) 特用林産物生産施設 | (13) 木質エネルギー等利用促進施設 | (18) 新しい木材活用のための加工供給施設 | |
| (4) 丸棒加工施設 | (9) 特用林産物加工流通施設 | (14) 木質バイオマス供給施設 | (19) 直交集成板加工施設 | |
| (5) 杭加工施設 | (10) 廃床等活用施設 | (15) 合・単板加工施設 | (20) コンテナ苗生産基盤施設等 | |

なお、利用料金等を徴収する施設を整備した場合は、施設全体の実績のほか、利用料金等を徴収する施設ごとの実績についても記載すること。

イ 林業機械作業システム整備【素材生産型】により導入した林業機械(以下、「林業機械」という。)

- 「施設等区分」については、上記1のアに該当する場合は(1)から(21)までを、1のイに該当する場合は機種を記載すること。
- 項目の「収入のうち公的資金等」欄には、収入のうち市町村の一般財源や森林組合の他事業からの流用等施設の運営による収入以外の収入を記載すること。(収入の内数)
- 「目標値」の欄には、事業計画書の作成段階における収支計画を記載すること。なお、林業機械については、導入した林業機械による素材生産事業等に係る収支計画を記載すること。
- 「報告年度」は、要領第6の2の(2)に基づくこととし、実績を年度ごとに記載すること。
- 「目標年度」の欄には、目標年度の収支を記載すること。
- 「収入」は、販売額又は利用料等とすること。
- 「支出」は、固定経費及び変動経費の合計とし、減価償却費等支出に計上すべきものを正確に積み上げること。
- コンテナ苗生産基盤施設等の整備について、事業実施主体が「認定特定増殖事業者」に該当し、目標値の達成が6年目以降となる場合は、要領第6の2の(2)に基づく「報告年度」のほか、目標値の達成年度まで欄を追加して記載すること。